

関釜裁判ニュース

2010年10月8日

第58号

釜山「従軍慰安婦」
女子勤労挺身隊
公式謝罪等請求事件

戦後責任を問う
関釜裁判を支援する会

関釜裁判とは、一九九二年二月、韓国釜山市などの元日本軍「慰安婦」と元女子勤労挺身隊の十人が、山口地裁下関支部に、日本国の公式謝罪と賠償を求めて提起した裁判である。九八年四月、「慰安婦」原告に一部勝訴判決がでた。しかし、広島高裁で、二〇〇一年三月、「慰安婦」原告逆転敗訴、挺身隊原告の請求は全面棄却。二〇〇三年三月、最高裁で上告棄却。

軍「慰安婦」問題立法運動について

はじめに

今年五月に発行した「関釜裁判ニュース」で「日本軍「慰安婦」問題解決全国行動2010」への参加・賛同の呼びかけをいたしました。その呼びかけに沢山の会員の方々が応じていただき、本当にありがとうございました。感謝の念と期待の大ききへの責任をひしひしと感じています。（これまでの取組みに関してとは同封しました「全国行動2010」のニュースを参照ください）

東アジア共同体創設の理念を掲げ、戦後補償問題解決への大きな期待を背負って出発した鳩山政権は誕生十か月で崩壊してしまいました。今年度の通常国会では最終日に超党派の議員立法として「戦後強制抑留者特別措置法」のみが唯一成立しました。極寒の地シベリアに強制連行され奴隷労働を強いられてきた六十万を超える抑留者のうち現在生存している約七万人に抑留期間に応じて二十五万円

花房俊雄

から百五十万円が支給される内容です。戦後自民党政権の下で連合軍捕虜とは対照的に社会主義国ソビエトの捕虜であったため、冷遇と差別にさらされ続けてきた人たちの無念の叫びが、政権交代でようやく実現しました。しかし、救済の対象は日本人のみで日本人以上に過酷な戦後を強いられてきた韓国や台湾のシベリア抑留者は除外されました。民主党中心の政権下でも外国人への戦後補償の扉は開かれなかったのです。

政局の激変

菅首相の誕生、参議院選挙での敗北と与党の過半数割れ、民主党を二分した代表選挙、尖閣諸島をめぐる日中対立と急速なナショナリズムの拡大、小沢元幹事長の強制起訴等とこの一年ハラハラしながら新政権を見守ってきました。

外交におけるアメリカ・中国の揺さ振りの中

で、民主党政権の外交をめぐる力量不足と経験不足が露呈し、東アジア共同体創設の理想は急速に現実性を喪失しています。政局の連続の中で民主党が掲げた暮らしを守る政策の実現も滞っている状況で、「慰安婦」問題等の戦後補償関連法案が検討される現実性がほとんど遠のいていく焦燥を感じています。

今後の取組み

菅政権に「慰安婦」問題解決の意思があるのか否か、あるとしても政局が安定して、参議院で過半数割れをしている状況で、国論を二分するような外国人への戦後補償を検討する時期が来るのかどうか推測がつきません。今私たちが準備すべきことは、菅首相が主張する「全員参加の熟議の民主主義」にのっとり、与党内に「慰安婦」問題の解決を目指す強い政策集団とそれを支持する多数の議員を生み出して政権内での優先政策に押し上げていくための地道で精力的な取組みです。各地で地元の議員を訪ね、「慰安婦」被害者たちの苦悩と尊厳回復への深い思いを伝え、立法解決への共感とうねりを与党内に起こしてゆかねばなりません。

小さな市民運動のネットワークにそのようなことができるのか正直言って不安です。しかし私は関釜裁判を支援する会を立ち上げて以来、力及ばずとも悔いのない努力はしてきましたと念じつつけてきました。どうか今しばらく私たちの取組みを見守ってください。

なお同封しましたチラシにありますように、来る十一月二十五日の女性に対する暴力撤廃国際デーに韓国、日本、台湾、フィリピンで集めた三十万余りの署名提出行動を行います。韓国の超党派の国会議員も過半数を超える議員署名を携えて日本政府に立法解決を促しに来ます。さらに韓国の被害者二人と在日の元「慰安婦」宋神道さんも同行されます。五月院内集会の四倍、も広い部屋を借りて院内集会を行う予定です。関東圏の会員の皆様奮ってご参加くださいませ。

この院内集会に多数の新人議員に来ていただけるように議員要請を強めていくつもりです。またこの署名提出行動を通して政権内に「慰安婦」問題の窓口の可能性を探っていきたいと思います。

最後に十月十八日に植民地下で強制動員されて亡くなられた被害者の遺族を福岡に呼びする証言集会も準備しています（同封チラシ）。小さいけれど心に沁みる集会になるよう準備を進めています。どうかご参加ください。

稲富修二衆議院議員と面談して

川野紀子

九月二十七日、早よつくろう！「慰安婦」問題解決ネットふくおかのメンバー六人で、稲富議員の福岡事務所を訪問して、稲富議員と面談をしてきた。時間はちょうど一時間であつた。

私たち立法ネットでは、四月から議員への要請活動としてメンバーの一人ひとりが、担当議員を決めて議員の方とアポイントをとる作業をしてきた。私は同じ地区でもある稲富議員の担当となつた。まず最初にしたことは稲富議員のホームページを見て、どのような政策を掲げているか、どのような活動をされている方なのかということだった。そのホームページで四月二十四日に稲富議員の主催でタウンミーティングがあることがわかり、花房俊雄さんとその会場へ行った。目的は勿論稲富議員に直接会ってアポイントを取ること、そして五月十三日の吉元玉さんの証言・院内集会に参加して聞いていただくことの要請であつた。また、その後、私は参議院選に出馬した堤要さんの事務所でも稲富議員の姿を何度も見かけた。私語をするでもなく、声も荒げることもなく、テキパキと応援のために行動している姿は爽やかだった。だからといって、「慰安婦」問題を解かってくれる人だと思っ

た訳ではない。

さて、俊雄さんが何度か、稲富事務所に連絡をつけて調整した結果、九月二十七日（月曜日）九時半に福岡事務所でも稲富議員と会うことができた。七つの資料と被害者の証言のDVD（次ページのトさんの報告と同じ）を渡した。そして俊雄さんは、被害女性の高齢化した中でこの問題の早期の解決がどれほど重要なことか、また、関釜裁判で支援した方たちのこと、そしてこれまでの様々な思いを淡々ではあるが心をこめて話された。稲富議員はその間、資料に目をとったり、また、俊雄さんをじっと見つめておられた。私たちは拒否するのでもなく、ただじっと耳を傾けておられた。議員にとって陳情や要請を聞くことも仕事なのだから、政治家のパフォーマンスのテクニクなのかなとも感じた。しかし、俊雄さんの話が終わると「あなたがこの問題にかかわった動機は何ですか」と質問されたのだ。

この稲富議員の質問は、この「慰安婦問題」に対して何か行動をするに当たって、自分自身にはどのような動機付けで臨めばよいのか模索をしようとしたのではないだろうか。

その後、私たちも一言づつ、それぞれの思いを訴えた。最後に稲富議員は「勉強させてもらいます」との言葉に、一時間ではあつたが立法ネットにとつて少しは前に進めたかなと思つて帰路についた。

大久保勲議員事務所を訪問して

報告

N・K

九月二十一日、博多駅近くの大久保勲議員事務所（立法ネット）の五名で訪問してきました。一時間あまり、秘書の方が対応してくださいました。お渡しした資料は、

・河野談話

・福岡市議会意見書

・促進法案

・米下院決議

・政府の第二次調査

・関釜裁判下関判決

・寺島実郎「世界を知る力」より（中田新書）

・吉元玉さんの証言DVD

（オール連帯に許可をいただき、DVD「私たちの公聴会」よりダビング）

それから花房俊雄さんが「慰安婦」問題について一通りレクチャーされるための資料「日本軍「慰安婦」問題の解決のために」を作ってきてくださいました。

一応私が分担の担当だったので初めにご挨拶だけさせていただきました。俊雄さんが内容のぎつしり詰まったレジュメを作ってきてくださったので、三十分ほど「慰安婦」問題について概説され、私も勉強会に参加してい

るような気持ちで、改めてこれまでの経緯を頭に入れるように、聞き入っていました。

秘書の方は静かに話を聞いておられて、唯一？反応があったのは二〇〇七年の安倍元首相の「狭義の強制云々」で問題になっていたときのこと、後はやはりあまりピンときてないように私には見えませんでした。でも嫌な顔をするわけではなく、ずっと話を聞いてくださっていました。

大久保議員本人はこの問題に関心があるか、という質問には、議員から直接この問題について聞いたことはないけど、二年前に時間をとっていたくらいだから、関心がないわけではないだろう（二年前くらい前に、一度大久保議員本人に時間をとってもらえたことがあったが、仕事の忙しい時間帯でどうしても面会に行けなかった）というお返事でした。

この問題に国会で取り組む可能性は、申し訳ないが他のいろいろな問題があるのが現状なので、それらが片付いてからということになる、ということを言われました。

金融や財政などにはご関心があるでしょうけど、なかなかやはりこの問題に関しては考えてこられたことがないのだな、と実感しました。でも、だからこそ本格的に取り組まれる段階になったときに反対に回らないように、理解を得ておく必要というのやはり感じま

した。

大久保議員本人との面会が実現するように、今後何度かお電話でブッシュするようにします。また、自分ではとても三十分とか一時間とか、説明して説得する技術がないということも痛感しました。やはり経験と学習が大事ですね。

都合がつくときは今後も他の議員事務所訪問に参加したいと思います。（MLへの投稿）

感想

これまで私は議員事務所の訪問にタイミンが合わずずっと参加できておらず、国会でのロビイングに少しついていただけなので、要領というものがさっぱりわかっていません。手短にそして説得的に重要な問題であることを伝え、「慰安婦」問題へ関心のない議員やその秘書さんにも協力的になつてもらえるように、うまくしゃべれる知識と経験がないのです。

事実関係で間違ったことを言うてはいけないと思ひ慎重になる面もありますし、慣れないシチュエーションで若干緊張してしまいます。ただでさえ、事務所に電話するのも落ち着かずドキドキしてしまうのです。私がヘマをしてはいけないうので誰か経験豊富な人がアプローチした方がいいのでは、とついつい思っています。

なので今回の事務所訪問は、やはり花房さんたちに頼りつつ、「慰安婦」問題の概要、経緯を説明されているのを聞きながら、勉強、勉強でした。秘書さんは二〇〇七年の安倍元首相の「狭義の強制云々」以外の特徴的な出来事についてはあまりご存知ないような様子で、こういった秘書さんの関心を引き、議員につないでもらうには、わかりやすい説明と説得力、それから熱心なはたらきかけを継続することなのだろうなあと思いました。

議員の関心に引きつけて要請することが難しい場合、政党の方針、マニフェストの具体的な内容に触れつつ、いかに国際政治の観点からも有益なこととなるかということも訴え、かつ人道的な面での共感をいかに得られるか、という感じでしょうか。

秘書さんも議員も男性であるということと、性暴力の問題を扱うことは、気まずく居心地の悪い思いをさせがちなかもしれませんし、本当は女性の立場から性暴力の根絶を訴えたい気持ちや男性中心社会を糾弾したい気持ちがあるのですが、そのような構えを見せることで「女性の問題」として括られ反って距離をとられるのも困るので、そういったバランスは難しいです。また、戦後補償の話はこの問題を語る上で柱になりますが、さらに歴史教育やレイシズムの問題などもっと熱く語りたいこともあります。しかし限られた時間の中

で集中して聞いてもらえるには、話を絞らな
いといけない部分も出てくるので、あくまで
戦略的に、となります。
ともかく今後も回数を重ねて、勉強してい
きたいと思います。

「慰安婦問題」の今後を考える 早期立法解決に向けて

日時: 11月18日(木) 18時30分から

会場: 福岡聖パウロ教会(日本聖公会)

(福岡市中央区草香江2-9-22)

- ・ビデオ 証言 日本軍「慰安婦」被害者 万 愛花さん、吉 元玉さん
- ・お話 花房俊雄さん(戦後責任を問う・関釜裁判を支援する会事務局長、
全国行動2010共同代表)
- ・報告 池田良子さん 福岡市議会議員

福岡市議会意見書採択可決までの歩み

主催: 「慰安婦」問題と取り組む九州キリスト者の会 第16回人権を考える集会

11・25 日本軍「慰安婦」問題の立法解決を求める

国際署名提出行動

日時: 2010年11月25日(木) 12:00-16:00

行動内容: 12:00-15:00 院内集会 署名提出 記者会見

15:15-15:45 国会前スタンディング

「慰安婦」問題の立法解決を求める日本・韓国・国際社会の署名を政府・国会に提出します!

参加予定者: 被害女性: 吉元玉さん、李玉善さん、宋神道さん

韓国国会議員: 李美卿(民主党)、郭貞淑(民主労働党)、朴宣映(自由先進党)、

金映宣(ハンナラ党・予定)の各議員

■主催

【韓国】韓国挺身隊問題対策協議会、挺身隊ハルモニと共に行動する市民の会

【日本】日本軍「慰安婦」問題の立法解決を求める120万人署名実行委員会

日本軍「慰安婦」問題解決全国行動2010、戦時性暴力問題連絡協議会

■連絡先 女たちの戦争と平和資料館(wam) 気付

日本軍「慰安婦」問題の

早期解決をめざしてー

日本軍「慰安婦」問題解決のために行動する
会・北九州 代表 野口千恵子

二〇〇八年三月、宝塚市議会の「慰安婦」問題解決のために誠実に取り組むようにという国への意見書」可決以来、各地の市村議会が動き出すという新しいうねりが起こりました。翌二〇〇九年には福岡県内で福岡市と田川市が「意見書」を採択し、北九州市でも市議会を動かさなくてはという思いを強くしました。なかなか前に踏み出そうとしない私たちの背中を押して下さったのは、立法ネット・ふくおかの方でした。私たちは今年五月末、「日本軍「慰安婦」問題解決のために行動する会・北九州」を立ち上げました。立ち上げ後、次のような取り組みをしました。

〈市議会に陳情〉

私たちは六月十一日、市議会議長宛に陳情書を提出しました。次の四点を要請しました。

- 一、被害者の出席のもと公聴会を開くこと。
- 二、「慰安婦」問題の責任を認めて、政府は公

式に謝罪すること。三、「慰安婦」問題解決のための法律をつくり、被害者に賠償し、名誉回復を図ること。四、日本軍「慰安婦」問題を歴史教科書に記述し、同じ過ちを繰り返さないよう後世に伝えていくこと。その結果、前三つは総務財政委員会に、四つ目は教育水道委員会に付託されて、それぞれの委員会で口頭陳述の機会を得ました。

総務財政委員会（七月二十日）では、年々亡くなっていく被害女性の無念な思い、騙されてあるいは甘言をもって「慰安所」に連れて行かれてからの過酷な「慰安婦」生活のこと、公式謝罪と賠償をもって尊厳の回復を求める被害女性たちの切なる願いなどを訴えました。今は亡き姜徳景（カン・ドッキョン）さんと金順徳（キム・スンドク）さんが描かれた絵画を見てもらいながら訴えました。

教育水道委員会（七月二十九日）では、「慰安婦」生活を強いられた人たちの中には中学生と同じ年頃の少女たちもいて、その女性たちの身に何が起こったのか、なぜそんなことが起きたのか、二度と繰り返さないためにはどうすればよいのかなど、この問題を通して中学生に人間の尊厳、女性の人権、平和の意味を学ぶ機会を保障することこそ政府の責任として、教科書への記述の重要性を訴えました。

〈九百三十回水曜デモへの連帯〉

八月十一日（水）、全国同時水曜デモに連帯して、私たちも小倉駅前始めて立ちました。十七人の参加者を得ました。台風一過、家路を急ぐ人々に、金学順（キム・ハクスン）さんが日本政府を告発されてから二十年、国内外の様々な取り組みにも関わらず解決の糸口さえ見出せない「慰安婦」問題が、一歩でも解決に結びつくようにと日本軍「慰安婦」問題の事実と現実を伝え、少しでも理解して解決に力を貸してほしいと訴えました。

〈日本軍「慰安婦」パネル展と映画上映会〉
陳情と水曜デモ連帯に平行して「慰安婦」パネル・絵画展と「オレの心は負けてない」上映会の準備を進め、八月二十八日（土）二十九日（日）に実施しました。映画会は二十九日のみでした。二日間で二百六十人余の参観者がありました。映画の参観者はこの内三十三名でした。宋神道さんの生き様から自分の力を生かす方向性を与えられた方、「戦争は絶対にやっつけられない」というメッセージを強く心に刻んだ方、宋神道さんの明るさとユーモア、彼女を取り巻く人間関係の豊かさに癒された方など、多くの方が様々な思いを胸に帰途につかれました。上映会をやったよかったとつくづく思いました。DVD「オレの心は負けてない」をもっと方々で上映したいと思っています。



韓国訪問記

花房恵美子

八月十七日から二十一日まで韓国訪問して原告の皆さんや関係者にお会いしてきました。仕事柄夏が一番「暇」なので、毎年夏の訪問が恒例となり、今回は左近明子さんと花房二人で、三人の旅でした。

八月十七日

お昼、釜山の金海空港から柳丁（ユ・丁）さんと待ち合わせ場所・ササンのバスターミナルへ。そこからバスで一時間あまり宜寧（ウイリョン）の朴SU（パク・SU）さんの家に行きました。犬猫病院の二階の半分を借りて一人で住んでおられます（不眠症がひどいので家族に迷惑をかけたくないため独り暮らしをされています）。この日は長男のお嫁さんが来られていて私たちを待ってくださっていました。

SUさんは、昨年は痩せて足元もふらふらして、日本語も出てこなかったのに、今回は全体にふっくらして日本語で良く話されました。「ふとる薬」を飲んでいたそうで、医者から怒られたそうですが、お元気そうでした。柳丁さんは「聴いた話を何度も聴いても仕方がない。」と、一人昼寝をしてしまわれましたが、その間SUさんは体の具合のこと、最初

に結婚した相手のこと、再婚した夫が亡くなった後日本語で手紙を代筆したり、国際市場で着物を売ったりして生活したことなど良く話されました。国民学校八十名の中で四年生まで一番だったそうで、日本の百二十四代の子孫の名前を三日間で覚えたと、途中まで「暗誦」してくださいました。朝鮮語の授業は一週間に一時間だけだったそうです。彼女がもし勤労挺身隊で日本に行かなくて両親の愛情に包まれたまま日本の敗戦・朝鮮の解放を迎えていたならばどのような人生を送られたのだろうと思います。

他の全ての原告の方たちに対しても思うことです。



夜は釜山に戻り、柳丁さんの家の近く・海雲台で丁さんの娘さんが営まれている食堂で夕飯を頂きました。近くで不動産屋を営まれている息子さん夫婦も来られて、料理

上手な丁さんの味を受け継いでいる娘さんの料理はタラとモヤシのコチジャン炒め煮のような鍋料理をはじめ新鮮で美味しく、賛伊さんの家族総出の歓待を心から嬉しく思いました。

翌早朝、高速バスターミナルで丁さんと再会を約束してから、光州行きのバスに乗りました。

八月十八日

バス道路沿いにはサルスベリの花が盛んに咲いていて、西日本で公園以外ではほぼ壊滅状態の松が生延びていて嬉しい風景だなと窓から眺めていました。

正午前に光州に着き、ナムムの家の村山君に紹介してもらった大学を卒業したばかりで現在NGOで活動しているHさんと合流しました。彼女は昨年福岡での日韓学生ワークショップに参加していたそうで、実に気持ちの良い女性でした。

四時間バスに揺られて縮こまった胃にきりつと冷たい冷麺を入れて心身をピリツとさせてから、工事中の道庁をみた後、国立五・一八民主墓地にいきました。（今回、光州抗争と関わりのある場所には是非行きたいと思っていた）国家の弾圧による犠牲者がこのように葬られている墓地は日本にはないし、厳粛な気持ちになります。広大な敷地で、遺骨のないお墓も一隅にありましたが、一人一人の顔写

真を添えた墓標を見ながらゆつくり歩くと、「死者たちと、なおともにあろうとする生者たちの思いが磁場となった地なのである。」(山口泉) まさにそのように感じました。異

次元の時間を経験したようでした。

隣接する追悼施設を見学してから、光州遺族会会長・李金珠(イ・クムジュ)さんの家に行きました。何度も伺ったのに、「開発」で近くに新しいビルが建っていて違うところに来たような気がしましたが、金珠さんの家の前に立つとああ何も変わっていないと安心しました。

迎えに道路まで来てもらった金珠さんは腰が曲がり瘦せられましたが、毅然として上品な雰囲気は変わらず、まだ激しい戦後補償運動をなさっているのに穏やかな顔をされていました。遺族会の会員の方が相談に見えたりして、相変わらず忙しそうです。



李金珠さん

息子さんのお嫁さんが骨折して入院されていて、孫のYさんが病院で付き添っているとのこと、家の中は静かでした。

懐かしく、嬉しく歓談していてもあつという間に時間が過ぎ、おいとますると、私たちが見えなくなるまで家の前の歩道ですつと見送ってくださいました。

「解決するまで死ねません。」との声が耳に残っています。お元気でいてほしいと心から思いました。

三菱に動員された勤労挺身隊として韓国でもっとも有名かもしれない梁錦徳(ヤン・クンドク)さんにはお会いできませんでしたが、日本の新聞やテレビにも登場されているので何年もお会いしていない気がしません。あのバイタリテイで活躍のご様子です。

八月十九日

ソウルにむかうKTXのなかでは俊雄は韓国の民主化闘争と光州闘争の歴史をHさんに「説明」していました。韓国でも次世代に民主化運動を継承することは難しいようでした。Hさんにはとてもお世話になり、また、彼女との旅は楽しいものでした。カンピョン駅で彼女とお別れして、ナムムの家に。

新築された生活館は気持ちよさそうで、エレベーターが付いて2階がカフェテラスのような食堂になっていました。早速お昼ご飯を頂いて、歴史館を見学しました。

歴史館を多分十回近く見学していると思いますが、この空間はいつ来てもタイムスリップして、ハルモニたちに近づけるような気がし

ます。二〇〇六年に亡くなった朴頭理(パク・トリ)さんの墓参りをして、亡くなった一人のおばあさんたちを懐かしく思いながらも、現在ここで暮らしているおばあさんたちと話していると、自分が「一過性」の人間であるという違和感はぬぐえず、後ろめたい感情をもちました。

夜はソウルに戻って、明日は日本に行くというナムムの家のスタッフ・村山君たちと楽しく食事をしました。先ほどの「違和感」や「後ろめたさ」を若い彼等に肩代わりしてもらっているように申し訳なく思ったものです。

八月二十日

朝一番にウリチブの李順徳(イ・セントク)さんに会いに行きました。昨年は「遺言」めいたことを言われたので、「この一年よく生き延びてくださいました」という感謝の気持ちでいっぱいになります。スタッフの呉さんによると、朝から具合が悪くて病院に行こうと言われていたそうですが、私たちが訪問すると聞くと急に元気になったそうです。自分の老いた親たちのことが頭をよぎりました。

「慰安婦時代に」よく殴られた。キセルでたたかれた。頭が痛いし、耳も遠い。薬をたくさん飲んだ。早く死んだらいいよ。」「死んだら可哀相と思ってくれるか?」「早く死んで、良い所に行って、可愛くなって、また戻ってくるよ。」

「若いときは可愛かった。今はダメ」「内地に行ったときは若かった。今は年をとって仕方がないよ。(日本に)来いと言われてももういいない。」

下関判決を勝ち取ったのは李順徳さんの本人尋問によるところが大きかったというところ「あ

りがとうね。そう言ってくれるのは。」
秘蔵の写真を見せてくださって、それは七十年代の終わりからのものでしたが、ゆっくり見て説明を聞きながら、彼女の半生を皆で慈しんだ楽しい時間でした。

ジャージャー麵をおごってもらって、おいとましようとする、「昼寝をしていけ」とか、何とか帰すまいとなさって、申し訳ないやらありがたいやらで言葉が出てきません。順徳さんに玄関先で泣きながら見送られて、何度も振り返りながら、この坂道を帰るときはいつも泣いていると思ったものです。



李順徳さん



午後一時の金丁 (キム・丁) さ

ん、羅 H (ナ・H) さんとの待ち合

わせにはかなり遅れましたが、坂本千壽子さんがお二人の話を聴いてくださっていました。

丁さんは高裁判決のあとの裁判所構内での抗議行動について、「年も年なので覚悟を決めてきたのです」と構内にいたかったが、日本の人たちに迷惑をかけてはいけなと思っ

た。」と、日本の運動と警察との関係について心配しておられました。また、彼女のお姉さん(金 C さん)は名古屋・三菱訴訟の原告ですが、一人では外に出れない病状なので正

珠さんは付き添いとして光州での三菱の原告団会議や東京行動にも参加されていて、三菱訴訟を光州で支援する市民たちや高橋さんをはじめとする日本の支援団体の活躍に感謝しておられました。「市民がこれだけ頑張っているのに(韓国)政府は何もしてくれないだけではなく、関心ももっていない。こんなに簡単に『棄却』にならなかつたはず」「今年に意味があるので、今年に(不二越が)やつてくれないとだめではないか」など、韓国強制併合百年の今年にかける意気込みを熱を帯びたように語られ、返答に窮しました。不二越では敗戦を知らされず、十月まで仕事して、突然船に乗れといわれたが、帰国するとは言われなかつたので、荷物は全部置いてきたし、給料の事も考えもしなかつた。夜は靴

を履いたまま、防空頭巾をかぶったまま寝て、空襲警報が出て逃げて、帰ったらすぐ出勤時間だった。あまりおなががすいて寮の周りの草を食べたが、除草剤が撒いてあつて、髪の毛が抜けた。」など、当時のことも話されました。四時間近く喫茶店にいたので、羅 H さんは腰がかなり痛そうでしたが、決して横になろうとはせず、丁さんの話を「私の言いたいことは全部言ってくれている。」と楽しそうに聞かれました。

八月二十一日

朝、認知症の進行が心配な朴 SO (パク・SO) さんのお見舞いに行きました。驚いたことに息子さんが待つていてくださいました。チョンリヤンリ駅近くの療養所(老人ホーム)におられて、おじいさん(SO さんの連れ合い)が今年の一月に肺がんでお亡くなりになったそうで、おじいさんの一年あまりの闘病の間、SO さんは彼にひどい言葉を投げかけていたそうで、息子さんは二人を引き離すために療養所に入れたそうです。



朴 SO さん

入所者十二人のこじんまりとした所で、同室のおばあさんにもよくしてもらっているそうで、認知症が進んで息子さんも分からなくなっておられました。気分はよいようでした。SOさんにお会いしたときにあまりに瘦せられてドキッとしたが、話していくと「ああ！やっぱSOさん！」私たちの顔はわからなくても目は強い光をもって、彼女の世界で尊厳を持つて生きておられました。息子さんの温かいまなざしと彼女の強い子どものような仕草は彼女の最晩年が理不尽ではなく尊厳を持つて終わろうとしていることを感じる事ができました。

昨年までの訪問と今回の感想が違うと感じるのは、おばあさんたちの最晩年の命の輝きを強く感じられたことです。前は、できることが少なくなっていく彼女たちを見て切なく苦しかったのですが、今回は命の強い光を見ないように思います。

あの認知症が進行して息子もわからなくなっている朴さんの目にもその光を感じました。責任、義務、罪悪感などの感情に縛られることなく（解放されたわけではありませんが）、村山君やHさんや坂本さんたちの助けを得て、貴重な時間をおばあさんたちにごせたことは幸せでした。



韓国への旅

二〇一〇年八月十七日～二十一日

左近明子



左近明子、羅Hさん、花房恵、金丁さん、花房俊

今回の花房夫妻との韓国被害者（元軍「慰安婦」、女子勤労挺身隊）を訪ねる旅は、きわめて私の内面に関わる動機によるものです。二年位前に花房夫妻から誘われた時、私は被害者の生活している場に私のような見ず知らずの人間が入り込んで良いのだろうか？彼女たちは見世物ではない。どんな顔をして私は

彼女らの前に立てるのか？私は自分に自信がなく強い迷いがあった。

この「日本軍『慰安婦』問題」に関わり始めて三年近く経つが、私はいつも「なぜこの問題に関わっているのか？」と自分自身に問い続けてきた。資料を読み、映画を見、講演を聞いても、私には壁があった。

今年恵美子さんから旅を誘われて、私は今回断ればもう被害者に会う機会は二度と巡ってこないのではないか、と恐れた。それが一番の理由です。

「なぜこの問題に関わっているのか？」という壁に答えが出るのか、出ないのか？結論を出すためではなく、とにかく、被害者に会って声を聞き、どんな様子で日々を送られているのか？今現在の生活の場に立ち会ってみようと思った。

会ってみて、私は「日本軍『慰安婦』問題」という大きな問題の周りをぐるぐる歩き続けていただけだったと分かった。一步を踏みこめば彼女たちの存在そのものがすべてを語ってくれていた。「日本政府は公式に謝罪しろ」「もう時間がありません」という言葉が私の内側に入り込んだ彼女たちの姿と共に言えるようになった。私はやっと入り口に辿り着いたのかもしれない。

不二越第二次闘争の今

中川美由紀（北陸連絡会）

第二次不二越の闘いが、今秋大きな山場を迎えます。来る十月十七日から、原告団が総力で来日します。

原告団代表の安ト（アン・ト）さんは、「これから闘いのはじまりです。この秋に原告団は、日本に來られる人は皆で来日し、不二越に対して原告団の総力で闘います。私たちは謝罪・賠償をさせるまで徹底的に、あらゆる闘いをします。富山工場を軸にして東京本社でも闘います。私は命のある日まで闘いますので、皆さんもぜひ力をお願いします」と訴えています。

勝利への道は、不二越企業が戦犯企業としての責任を取ることを拒否するならば、世界から企業の存亡を問われる状態にまで追いつめることだと思います。不二越の戦争犯罪を世界中に明らかにし、徹底した抗議行動をつくりあげたいと思います。

そのひとつが、不二越関連会社へのFAX攻勢です。不二越は中国市場二倍化を営業戦略として打ち出しており、組織体制も中国へシフトしています。この間、中国の不二越子会社や関連企業へのFAX行動を集中的に開始しました。不二越の蛮行を訴えるために、

不二越強制連行についての中国語説明文を作り、日本による侵略の被害者と関係団体に協力依頼の連絡を始めました。不二越が中国で生き残りをかけようとするのなら、そこを最大の弱点として攻めます。今後、さらに英語説明文とニュースを作成し、各国人権団体へも訴え、各国の人々からの不二越関連企業への抗議を組織したいと思っています。

こうしたFAX行動によって、世界に広く訴え、支援の輪を広げて、不二越の取引市場を包囲していきます。

そうした包囲網をつくりながら、十月十八、十九日、東京本社で終日座り込みを行います。営業の拠点である東京本社での座り込みは、不二越の企業イメージに打撃を与えます。三月にも座り込みをしていますから、警備員や警察を導入して排除しようとするでしょう。たとえ強制排除されても、会社周辺と東京本社に近い汐留駅で街頭宣伝をします。

そして二一、二二日は富山本社工場・正門前での長期行動を行います。生産の拠点を包囲することで、実質的な営業に対する打撃を与えます。三月の原告団来日の時は、トラック搬出入用の南門でも抗議しました。原告団の激しい怒りに直面した会社側は「営業妨害で訴えるぞ」と警察を導入しましたが、十月も引き続き闘いたいと思います。不二越は

原告が高齢になって死に絶えることを待っているのようですが、私たちは、来日できない原告の身代わりとなって体を張って闘いたいと思います。

知恵を出し合い、大胆に、そして柔軟にねばり強く闘いたいと思います。これからもご支援をよろしく願っています。

十月に來日されるのは関金裁判関係の原告六人のなかで金丁（キム・丁）さんだけです。朴SO（パク・SO）さんは認知症が進行し、もはや息子の顔も分からず、「ことも」に戻っておられます。羅H（ラ・H）さんは腰の手術をして、今も真つ直ぐには立てないので歩くのも苦しそうですが、「金丁さんが」私が言いたいことを言ってくれ、したいことをしてくれている」と、丁さん思いを託しておられます。柳丁（ユ・丁）さんは二十年近く充分「闘った」ので、「もう闘争では日本に行かない」と引退宣言をされました。遊びになら日本に行きたいそうです。朴U（パク・SU）さんは戦後途切れることのなかった「不眠症」のための睡眠薬の副作用で足元がふらつき釜山までも出てくることはできません。そして、木浦の成S（ソン・S）さんは裁判に心を残してお亡くなりになりました。金丁さんは皆の願いを背負って来日されます。

追悼 福留範昭さん



強制動員真相究明ネットワークの事務局長であり、強制動員真相究明福岡県ネットワークの代表であり、関釜裁判を支援する会の事務局長であった福留範昭さんが五月五日に急逝されました。前号の関釜裁判ニュースの印刷作業日に訃報が入り、動揺と混乱のなかでニュースを送りました。いまだに彼が亡くなったことが実感できず、人懐っこい笑顔ですぐ横におられる気がします。どんな立場の人とも対等に付き合い、間違いを間違いとして糾していた彼の私欲のなさを懐かしく思います。彼が遠くに行つた気がしないのは、多分彼も逝くつもりがなくて、しまったと思つていて、とりあえず近くで応援して見守つていてくれるからではないのかと思つています。

彼が準備して遺した韓国人遺族を招く集会が全国で行われ、福岡でも開催します。皆様の参加を呼びかけます。花房恵美子

福留さんの念願だった

「残された韓人遺族の苦しみに

耳を傾ける集い」に「参加を！」



安倍妙子

「今年はねえ、夏の終わりには遺族を呼んで、癒しの集会をやる予定だからね。」
「ずっとやらんといかんと思つていたからね。」
「やるよ。」
二〇一〇年が明けてからの福留さんは、電話でいつもそう言っていました。

「夏までは「日韓併合百年行事」が詰まるところから、八月下旬にはなんとかやりたいねえ。」
「もしかしたら九月になるかも知れんなあひよつとして。その時は協力頼むからね。」と。

そして最後の電話での会話となった三月下旬、「四月に韓国に行くから、その時に一緒に煮詰めてくるわ。KさんとPさんを、あんたしつかり捉まえてよ。」

「六月の筑豊の行事のOさんにも協力してやってね。彼、頑張るところからなあ。」と、何度か会話した福留さんの弾んだ声が、まだ私の耳に残っています。

福留さんの胸の中にはずっと、幼い時に母親を病気で亡くしたご自分の姿と、被害者の遺族の姿が重なっているのだろなああと、近年の「遺族と共に」の行事を終える毎に、その想いの強さがズン！と伝わってきていました。

これまで福岡に二〇〇六年と二〇〇七年にそれぞれ二名、一名のご遺族の方をお呼びして、「遺族と共に」の証言集会を開きましたが、その反省会の折にはいつも「うん、よかった、よかった。」と、会議の最後にきまつて福留さんはそう言っていました。

今、あらためて、その「よかった、よかった。」は、福留さんがご自身のインナーチャイルドに自ら語りかけておられた言葉だったのだなあと思ひ返しています。

その福留さんが五月に急逝されて、その哀しみを十分に味わう間もなく次々と併合百年の行事が進む中、国会の、遅遅として進まな

い政策論議の現実に、今更ながらに大切な宝物を失くしてしまったのだという喪失感の深さに 気づかれます。

私も強制動員真相究明福岡県ネットのみんなも、まだ思いっきり泣けていないのです。

こんなことを言うと、「何を言うとするんだね、君たちは。」と、福留さんのいつもの鋭い突込みが入ってきます。

十月十八日、その福留さんが一番やりたかった、遺族を呼んでの癒しの集会が開催されます。

福留さんのこれまでの想いのこもった集会を実現しようと、「残された遺族の苦しみに耳を傾ける集い」という素敵なタイトルがつけました。お呼びしたご遺族の方たちの想いと言葉をしっかりと受け止めてお聴きしようと、私たちは思います。

そして、多くの「強制連行」や「戦後補償」問題と関わった人たちと一緒にこの想いを共感できたらいいな、と願います。

十月十八日のこの時に、会場のどこかにきくと福留さんは参加していると思います。

そして終わったらきつとつぶやいてくれることでしょう。

「うん、よかった、よかった。」と。



韓国「併合」100年 強制連行のもう一つの被害者

残された遺族の苦しみに耳を傾ける集い

◆ 日時 10月18日(月) 午後6時～8時30分 資料代 500円

◆ 場所 ふくふくプラザ5階 視聴覚室 地下鉄唐人町下車 4番出口徒歩5分
お話 鄭倫炫(チョン・ユニョン)さん、金東官(キム・ドンガン)さん

横川輝雄さん 筑豊における強制連行の犠牲者とその遺族について

主催 強制動員真相究明福岡県ネットワーク

共催：太平洋戦争被害者補償推進協議会 後援：東北アジア歴史財団

★首都圏だより★

先日、伊集院静氏の「お父さんとオジさん」を読んだ。伊集院氏のいわば「自伝的小説」である。山口県に住む在日二世の「ボク」は、かつて一度だけ、韓国からたずねてきた母の弟と会ったことがあった。その叔父が亡くなった後、「ボク」は、海運業を営む実家で古くから働いていた男性から、驚くべき話を聞かされる。朝鮮戦争中、「ボク」の父は、戦乱で困窮する義弟を助けるため、危険を顧みず密航して単身韓国に渡ったのだ。男気あふれた父の破天荒な行動。いち家族の歴史が、民族分断の韓国現代史と二重写しになる。

伊集院氏は還暦を前にして、自分のルーツに向き合おうとしてこの物語を書いたのかもしれない。

わたしは、伊集院静氏といえは思ひ出すことがある。ご存知のように彼の前の奥さんは亡くなった女優・夏目雅子だ。結婚したとき、結婚式も韓国の様式で挙げ、夏目雅子もチマチヨゴリの衣装を着た。彼女は当時「彼は韓国の人なんです」と周りに語っていた。韓流ブームなんぞのはるか前、それでなくても在日韓国人は何かと偏見の眼で見られ、在日の芸能人は国籍をひた隠しにすることが多かった。なのに彼女は屈託なくそう言った。わたしはそのとき「夏目雅子っていきさきよい女優だなあ」と好感を持ったのを覚えている。わたしの在日二世の友人は「ゴシップ記者たちを前に、『彼の祖国の韓国にいつか行ってみたい』と堂々と語った彼女の姿を忘れられませんか」と、のちに話してくれた。いつまでも美しいままの夏目雅子は、その心も、民族や国籍にこだわらないまっすぐなままだったのだと思っている。

弔辞

一昨日の朝、福留さんあなたはあまりにも急に逝ってしまわれました。

電話で、お連れ合いさんが涙声で亡くなったと伝えてくださったとき、私は思わず「え」と叫んでいました。気が動転し、昼の料理の仕事を済ませて、近所の福留さんの家に駆けつけました。そこには、よく一緒にいった旅先での寝姿のままの福留さんが横たわっていました。とても死んでいるとは思えない顔色で、頬にそつと手を触れてみて、その冷たさにあなたが死んだことを感じざるを得ませんでした。

この三日間、福留さんの訃報を聞いた日本各地や韓国、そしてアメリカの人々から、あまりにも急な死を悼む声が殺到しています。あなたは近く前一週間韓国に出かけていました。会議やシンポジウムで元氣な姿に接してきた友人たちにはとても信じられない、受け入れがたい死でした。この会場にも韓国からそして日本の各地から駆けつけた方々があなたとの別れを惜しんでいます。誰もがまだ現実感が持てないのです。

福留さんは三十代前半の五年間家族と韓国に住み、大邱市の大学で日本語を教える傍ら、各地に出かけシャーマンの研究をされてきました。そこで覚えた韓国語はあなたを日韓の

間に和解の架け橋をかける終生の仕事に向かわせました。

九十年代始め韓国の民主化と共に、長い沈黙を破って名乗り出た日本軍「慰安婦」被害者のおばあさんたちや、強制連行されて中国の戦地や日本の炭坑などで亡くなられた方々の遺族たちとあなたは深く交わってきました。日本政府が被害者たちにきちんと向き合い、その痛みを理解し、責任ある謝罪と賠償を通して和解の未来を作り出すために働いてきました。

とりわけ二〇〇四年末、韓国政府が植民地支配の下で強制動員された被害者たちの真相究明と遺骨の調査と返還の協力を日本政府に要請して以来、あなたは全国でそして福岡で市民のネットワークを作りその実現にとりくんできました。韓国の新聞の植民地時代の被害とその克服に関する記事を本日参加されている森川さんと共に翻訳して発信し続けてきました。また、福留さんは韓国の政府組織である真相糾明委員会と日本の真相究明ネットワークの意思疎通を一手に引き受けてきました。ハンゲルを語り、物怖じすることなく率直に思いをつたえ、そしてとてもフランクに相手の懐に飛び込んでいくあなたの人柄は多くの韓国人に愛され、信頼されました。韓国の被害者と真相糾明委員会と共に、日本政府に真摯な対応を求める要請を続けてきました。

日韓両国の間がきしんでいて遅滞として進まない取組みのなかで人知れず多くのストレスも抱えてきたのでしよう。数年前に糖尿病が発生し、病気の体を押して韓国に東京に出かけるあなたを私たちははらはしながら見守ってきました。

昨年、過去をきちんと見つめる勇氣を持つとうとして新しい政権が日本に生まれしました。そして今年は日本が韓国を強制的に併合してから百周年になります。この年を過去の克服と和解の年にするための日韓両国市民による取組みの要の位置に貴方は居ました。かけがえのない人を失った喪失感を抱きながらも、いつも虐げられてきた人々のそばに寄り添って共に闘ってきたあなたの遺志を受け継ごうとする多くの人が今日の葬式を見守っています。

本当にお疲れ様でした。今はゆっくりと休んでください。

最後になりましたが、ご遺族の方の悲しみはいかばかりかとおもわれます。お連れ合いのRさんの理解と大きな支えなくして福留さんの働きはありえませんでした。心よりお悔やみをもうしあげます。

Mさん、H君、父上を誇りに思っただけの人生を歩んでいってください。あなたがたの人生が幸多きことを祈っています。

五月七日

花房俊雄

活動日誌 (2010年4月から10月)

- 4月30日 松本龍衆議院議員事務所訪問 秘書の方に要請 4名参加
5月5日 関釜裁判ニュース印刷・発送作業(福留範昭さん逝去)
7日 福留範昭さん葬儀
10日 楠田大蔵衆議院議員事務所訪問 秘書の方に要請 6名参加
(各議員事務所へ面会要請と院内集会への参加要請)
13日 院内集会(被害者は待てない、償いの時を逃すな!)
6月6日 九州ブロック会議
中旬 アンケート 全国行動2010で全国で郵送・FAXにて実施
28日 立法ネット会議
7月11日 (参議院選挙)
12日 北九州へ 西南KCCの展示室見学と北九州市民との交流会
16日 韓国「併合」100周年—日本軍「慰安婦」問題の解決について
花房俊雄話す
26日 Kさんの研究発表 立法ネットで
8月1日 全国行動2010 全国拡大事務局会議(於:福岡)
4~16日 筑紫野市生涯学習センターで宋神道さんのパネル展
10日 菅首相談話(7日に立法ネット他で菅首相に要請文)
11日 世界同時水曜デモ(西新プラザ前にて)
日本軍「慰安婦」問題の解決を求める日本人女性100人宣言他
17~21日 韓国訪問(花房俊、花房恵、左近)
23日 立法ネット会議
下旬 地元民主党議員へのFAXと電話による面会要請行動
9月5日 真相究明ネットワーク事務局会議(於:神戸)
13日 真相究明福岡県ネットワーク会議
15日 福岡県教職員組合、平和・人権フォーラムに署名の取り組み再要請
21日 大久保勉参議院議員事務所訪問 秘書の方に話す 5名参加
27日 稲富修二衆議院議員に面会 6名参加
立法ネット会議
10月3日 全国行動2010事務局会議、11・25署名提出行動関係者会議(於:東京)



★関釜裁判ニュース58号★

2010年10月8日発行

編集作業人 花房恵美子 緒方貴穂

発行

戦後責任を問う 関釜裁判を支援する会

代表 松岡澄子 入江靖弘

E-mail hanafusa@df6.so-net.ne.jp

年会費 3,000円

郵便振替01740-047678

口座名 関釜裁判を支援する会

WEB版関釜裁判を支援する会

ホームページアドレス

<http://www.kanpusaiban.net/>

編集後記

前号ニュース発行後たくさんの方から会費・カンパを送っていただきましてありがとうございました。今ニュースを発行するにあたって、会計の緒方君からもう一度支援する会のこの2年分の振込用紙を見せてもらいました。データ上ではなく、「生」の振り込み票からは皆さんの熱い想いが伝わってくるようでした。お会いしたことがないけれど、名前はよく見えていてすっかり友人のような気持ちになっている方々、何年もお会いしていない方々、長いご支援に心より感謝いたします。(恵)

不二越訴訟のお問い合わせは
第二次不二越訴訟支援 北陸連絡会

ホームページ

<http://www.fitweb.or.jp/~halmoni>